

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	東京都立大島高等学校
授業者	金子 雄

### 1. 単元計画

農業情報を農業に属する各科目のプロジェクト学習に向けて、合理的な活用について理解するとともに、関連する技術を身に付けさせる。

#### 1-1. 単元名

農業学習と情報活用

#### 1-2. 学年

2 学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

農業「農業情報処理」 ※新学習指導要領では「農業と情報」

#### 1-4. 単元の概要

単元名「農業学習と情報活用」

農業科・科目「農業情報処理」では、新カリキュラムにおける後継科目「農業と情報」への移行を見据えており、本単元では、「課題研究」や他の農業に属する他の科目との横断により発展的かつ創造的な学習につながるよう、各科目の内容との連携を図るとともに、学習の成果を記録・整理・発信できるようにすることをねらいとしている。生徒の主体的・対話的で深い学びの充実のために、プロジェクト学習の手法を用い、専門事業者との連携のもと、農業情報を活用した商品開発研究を実施する。

本学習を通じて、地域資源の価値を認識させ、生産者としての責任感を身に付けさせる。生産した地域資源をどのように加工・流通させるか考える生きた学びとする。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・身近な事例を通して農業情報を活用した地域振興について理解させる
- ・科学的・創造的なプロジェクト学習を通じて、起業や六次産業化に関わる農業情報活用の実践力を身に付けさせる。
- ・農業情報として国内外の地域資源活用に関する取り組みについて取り上げ、生徒が地域資源を理解し、活用できるようにする。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・地域資源の活用に関する課題を発見し、農業情報を活用して合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・農業情報を活用した地域振興に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1-7. 単元の展開（全 10 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1・2	外部講師による講演会  『世界に誇る日本の発酵文化』	講師 多田 一政 氏 第一酵母株式会社専務取締役 (1)世界と日本の発酵食の歴史と文化を学ぶことで世界に目を向けると共に、海洋資源に恵まれた日本、そして島の食文化の魅力と特徴を理解する (2)発酵と地域資源を活かした特産品づくりについて考える機会とする。
3・4	外部講師による講演会  『農業 x デザイン思考が世界を救う』	講師 後藤 未図（ごとう みと）氏 株式会社ミームデザインズ代表取締役社長 一般社団法人 未来農業創造研究会 理事・事務局長 (1)これからの時代の農業の姿を考え、最新の農業情報を理解する機会とする。 (2)地域ブランドを情報発信するために必要なことを考える機会とする。
5・6	農業情報と地域資源に関するプロジェクト学習 ・商品化に向けたブレインストーミング ・KJ法によるアイデアの集約 ・パワーポイントを用いた発表	言語活動の充実/興味・関心 商品の決定/知識・理解
7・8	農業情報と地域資源に関するプロジェクト学習（販売実習） ・地域資源の販促とブランドづくり ・商品ラベルの作成と販売準備 ・安全管理と活動の評価方法について	販促についての説明/知識・理解 商品ラベルの作成/関心・意欲・態度 PDCA サイクル/知識・理解
9・10	外部講師による講演会  『島の特産品を IKASU レシピ開発』	講師 御旅屋 良 氏 海鮮茶屋寿し光 店主 (1)海洋資源に恵まれた日本、そして島の食文化の魅力と特徴を理解する機会とする。 (2)発酵と地域資源を活かした特産品づくりとその発信方法について考える機会とする。

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

自分たちの手で開発した商品を実際に販売することで、商品知識や地域資源を活用した商品開発についての理解を深め、生産技術習得意欲と学習意欲の向上につなげる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<b>導入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ、点呼、実習内容の確認 /目標と実施方法の確認</li> <li>・販売会場の準備 /テント、テーブル、椅子などの設置</li> <li>・商品の搬入・陳列 /お客様の気持ちを考えて商品を陳列</li> </ul>	実習内容の確認 / 知識・理解  動線を考えた配置 / 関心・意欲・態度  置き方、見せ方の指導 / 関心・意欲・態度
<b>展開</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼び込み /声出し、笑顔、ポイントの確認</li> <li>・商品説明 /地域資源を活用した商品の PR</li> <li>・目標の確認、達成のための改善行動 /状況に応じて売り方を変えてみる</li> </ul>	模範を示し自信をもたせる / 実習態度  説明を聞いて補足、改善 / 実習態度  状況をみて考えさせる / 実習態度
<b>まとめ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売数、残数の確認 /過不足の確認</li> <li>・アンケートの回収 /来訪者アンケートの確認</li> <li>・振り返りと評価の実施 /生徒の反省とアンケート結果の照合</li> </ul>	差異がないことの大切さ / 知識・理解  真摯に受け止めさせる / 関心・意欲・態度  結果から考察させる / 興味・関心

### 3. 今回の活動の自己評価

今年度は、生徒の発案をもとに、地域資源である島トウガラシと、食塩を用いて、「キムチの素」を生産した。本校で栽培した伊豆大島の地域資源の島トウガラシと、(株)海の精の食塩を用いて、製造は発酵食品会社である第一酵母㈱に業務委託する形で実施した。

科目「農業情報処理」の中でも、とりわけ本単元では、プロジェクト学習の手法を用い、専門事業者との連携のもと、農業情報を活用した商品開発研究を実施することを主眼とし、外部講師の講演やワークショップを通じて、地域の特産品である島トウガラシをどのように活用するかを探究した。商品が「キムチの素」になったのは、「豚キムチを食べたい」という生徒のひと言がきっかけである。

本単元の学びを通じて、地域資源の価値を認識させ、生産者としての責任感を身に付けさせることができた。さらに、生産した地域資源をどのように加工・流通させるか考えることでより生きた学びにすることができた。

なお、「キムチの素」を用いたレシピ開発で生徒が考案した「キムチ風ミネストローネ」および「ウマ辛豚キムチ丼!」は、2020年の東京愛らんどレシピコンテストで入選することができ、商品の知名度も上昇し、生徒の生産技術習得意欲と学習意欲の向上につながっている。

現在、農業の六次産業化が注目されており、各地で地域の特色を活かした取り組みがなされている。本校の商品開発研究はモデルケースになると思われ、伊豆大島の農業や観光業の活性化につながる可能性のひとつを見出すことができたと考えている。

### 4. 今後の課題

昨年の「島唐辛子入り海苔佃煮」と同様に、今回も島トウガラシをベースにしたが、これは他の野菜や果樹、畜産物などさまざまな形の応用が考えられるので、年ごとに生徒の興味関心に応じた教材で取り組んでいくことを継続していきたい。

いずれの地域資源活用であっても、栽培や飼育技術の基礎基本なくしては良質な商品開発は望むべくもないので、しっかりと基礎的な知識と技術を定着させることが重要になってくると考えている。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

「海洋と人類の共生」という海洋教育の理念の実現に資する実践となるよう、「海」という視点からあらためて単元開発をおこない、地域資源の島トウガラシと塩を結びつけることができた。販促を意識したデザインの学びも取り入れることが出来たのも大きな成果である。地域に規模の大きい地場産業の工場がなかったので、今回も内地の事業者と提携したが、今後は地域の事業者と提携した商品開発も模索していきたい。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。